

2022年3月期 第3四半期 決算説明会における質疑応答

2022年1月31日
NEC ネットエスアイ株式会社

※今期:2022年3月期、
今3Q:2021年10~12月期
今3Q累計:2021年4~12月期

質問者A

Q:半導体・部材不足影響について教えてください。半導体影響は2Q決算時に説明がありましたが、部材不足については新たな話として言及がされたように思います。今3Q累計の影響額について、半導体と部材とで分けると、それぞれどのくらいの影響があったのか教えてください。

また、来期についてどのくらいの影響が出てくると考えているのか、教えてください。

A:明確に分けられるものではありませんが、3Q累計の影響額としては半導体影響のほうが大きかったものの、3Qになって特に部材不足(コネクタやセンサー等)影響が大きくなってきたと感じています。なお、来期の見方については、なかなか見通すのが難しいところがありますが、長期化するという厳しい見方をしているメーカーもいますし、足元で部材不足影響が拡大していることも考えると、来期についても楽観視はできないと考えています。

Q:今回の下方修正の要因の一つとなっている、ミャンマーのPJについて、これはどのくらいの期間のPJなのですか。また、過去のメガソーラーでの不採算と比べて、今回のミャンマーは同様に不採算が膨らむリスクがあるのでしょうか。

A:もともとは約二年の工期で、今期までで完工の予定でしたが、再来期まで伸ばしており、引き当てについても、現状長めの工期で折り込んで損失を計上しています。ミャンマー国自体については、一時よりは落ち着きが戻ってきているところもあるので、過去のメガソーラーのように今後さらに損失が拡大していくということにはならないよう努力していきます。

質問者B

Q:半導体・部材不足における年間の影響額について、各セグメントの影響額を教えてください。また、本影響は、来期も続くにせよ、今期がボトムでもう少し改善してくると考えるのでしょうか。

A:売上への影響について、通期予想の△145億円の内訳は、DSLが約△5億円と微少、NWIが約△60億円、ESSが約△80億円、損益については、△30億円のうち、DSLがほぼゼロ、NWIが△15~6億円、ESSが△15億円弱という予想です。また、来期の見方については、製品によってはあと1年間この状況が続くというメーカーもいるなど厳しい見方もあります。来年も引き続き影響を受ける可能性もあると考えています。

Q:DSLの受注について引き合いが活況とのことですが、3Qで受注の中身の変化はありましたか。また、DXの受注額はどの程度でしたか。

A:3Qになって急に受注トレンドが変わったということはありません。一時期のZoomの急激な伸びというものについては、トーンダウンしていますが、DXの需要は引き続き強く、広がっています。企業向けもICT投資が回復してきましたが、これに加えて、上期の埼玉県向けのような官庁・自治体向けも拡大しています。その結果、DX受注額についても、今期3Q累計の実績は約200億円と、100億円弱だった前年同期実績から倍増しています。

Q:各セグメントの売上総利益率が過去から改善してくるなど堅調に推移していますし、また、受注残についても、GIGAスクールなどといった収益性の低いものから収益性の高いものにミックスも変化していると感じていますが、そのような中で、今後の各セグメントのGP率改善の方向性はどのように考えているのでしょうか。

A:DSLについては3Qでも大きく売上総利益率が改善しており、来期についても、同じピッチで改善するかはともかくも、今後も引き続き改善を図れると考えています。NWIとESSについては、DSLに比べると少し改善は遅れながら進んでいますが、今後DXを活用したビジネスなども含めて改善できると考えており、来期もしっかりと改善させていきたいと考えます。

以上